

OpenAIの法人向けAIプラットフォーム「Frontier」を 基盤に、「クリスタル・インテリジェンス」の展開に 向けた取り組みを加速

SB OAI Japan合同会社（以下「SB OAI Japan」）とソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）は、2026年2月5日にOpenAIが発表した法人向けのAI（人工知能）プラットフォーム「Frontier（フロンティア）」※を基盤として、AIで企業の経営を変革する「クリスタル・インテリジェンス（Crystal intelligence）」の展開に向けた取り組みを加速させます。現在、ソフトバンクの社内で検証を進めており、日本国内の企業への「クリスタル・インテリジェンス」の早期展開を目指します。

OpenAIが発表した「Frontier」は、AIエージェントが部門を横断したタスクの実行や意思決定支援を担う際に、課題となる企業データや業務システムとの連携を可能にする法人向けAIプラットフォームです。

企業によるAIの導入が急速に進展する一方で、データや既存システムとの統合、セキュリティやガバナンスといった運用面での課題から、個人や部門ごとの個別活用にとどまり、全社横断での業務変革や意思決定に寄与する効果は限定的となっています。AIを企業の経営変革につなげるには、企業のシステムやデータ、業務と一体化して、部門横断で協調して成果を創出するAIエージェント群の設計と、その実装から定着までを支える仕組みが不可欠です。企業は「Frontier」を活用して、AIエージェントの設計・開発・運用・管理・連携を安全かつ網羅的に行うことで、AIエージェントの活用を試行の段階から実装・定着の段階へと進めることができます。これにより、AIエージェントがより柔軟に企業の業務変革に直接貢献する仕組みを構築して、持続的な価値の創出につながることを実現します。

「クリスタル・インテリジェンス」は、「Frontier」を基盤として、日本の企業がAIを全社横断で活用するために必要な機能群や、導入支援・運用サポートを統合した法人向けAIソリューションです。SB OAI Japanは、ソフトバンクでの先行検証で培った知見や日本企業に対するシステム導入のノウハウを基に、FDE（Forward Deployed Engineer：顧客企業と並走しながら設計・構築・運用まで支援するエンジニア）が企業ごとにAIエージェントを導入するための業務整理やユースケースの設計から、データや既存システムとの統合、セキュリティ・ガバナンス設計、実装・定着までを一気通貫で支援します。また、SB OAI Japanは、企業におけるさまざまな業務プロセスやニーズに対応する独自のAIエージェント群を提供する予定です。

OpenAIのGlobal Head of Forward Deployed EngineeringであるColin Jarvis（コリン・ジャーヴィス）氏は、次のように述べています。

「ソフトバンクは、企業におけるAIエージェントの可能性を切り開く上で、極めて重要なパートナーです。私たちはこれまでSB OAI Japanと共に、ソフトバンクのコア事業を大きく成長させるAIエージェント・ワークフローを実装・展開してきました。今後も法人向けAIプラットフォーム『Frontier』を活用し、SB OAI Japanと緊密に連携して、AIによる企業の業務プロセスの再構築と日本市場向けの最適化を進めていきます。ソフトバンクとの先行的な取り組みは、日本企業でのAI導入を持続可能な価値創出につなげるための重要な基盤となります。私たちはソフトバンクとSB OAI Japanと共に、AIエージェントが切り開く新たな未来を実現することを楽しみにしています」

SB OAI Japanは、OpenAIやソフトバンクと共に、「クリスタル・インテリジェンス」の品質・安全性・運用性を高めるとともに、日本の企業向けの提供体制を整備し、2026年中の展開に向けて取り組んでいきます。

※ 「Frontier」の詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

- SoftBankおよびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。